

# コープの産直事業

## ～顔の見えるコープの産直～

### コープは組合員と生産者のかかわりを大切に、互いに信頼し努力し商品をつくり続けます

コープは、生産から食卓までつながる取り組みをすすめることで食卓の安心を守ってきました。1972年に始まった産直の取り組みは、今では農産物だけでなく水産・畜産品や米・たまごなどにも広がっています。

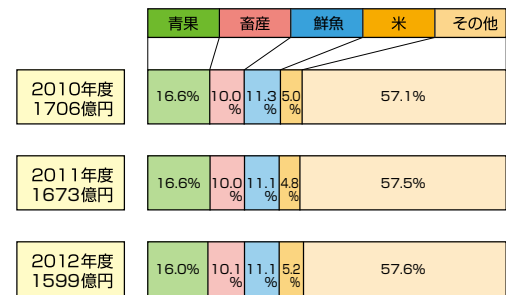
産地では組合員、生産者、コープの職員がその取り組みについて意見交換をしたり、商品仕様どおりの生産状況であるかなども、ともに確認し合います。

また生産者は店舗での取り組みや組合員の集まりに参加するなど交流を深めながら、産直の商品を育てています。さまざまな取り組みや交流から得られた情報は、商品活動や業務活動を通じて組合員に伝え、「出どころ確か」な商品として安心を届けています。

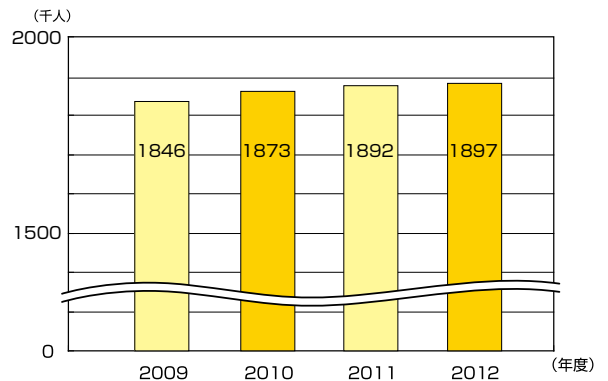
■コープは商品活動の歴史を通じて、組合員の商品に対する要望を「コープで扱う商品5つの願い」としてまとめています。コープの産直事業は「コープで扱う商品5つの願い」を具体化する取り組みです。

- ①より安全 …………… 組合員の健康を支える、より安全で信頼できる品質
- ②より安く …………… 暮らしを守り、よりよい暮らしのための価格の安さ
- ③環境に配慮 …………… 持続的に発展可能な社会のために、環境に配慮した商品
- ④正しい情報、適正表示 …… 商品選択のための適切な情報の提供・適正表示と消費者教育
- ⑤組合員参加 …………… 組合員の商品への6つのかかわり(利用する/意見を出す/学習する/普及する/開発・改善する/評価する)を広げます

#### ●食品供給高にしめる部門割合



#### ●組合員数の推移



## コープの取り組み

2012年は、より進化した産地単位での産直の取り組み「まるごと産直」の産地として、ながさき南部生産組合、ふらの農業協同組合に続き、新たに花巻農業協同組合と調印し、産直商品と交流の場をさらに広げました。産地や生産者の顔がより見え、産地と協力して安定した農産物の生産と安定した取り引きをめざします。

また産直産地とコープの関係を更に強めるため、「コープの産直市」を3県6会場で開催しました。生産者を店舗に招き、生産者自らが売場で実際に利用している組合員と交流し、組合員は生産者の思いや商品を知る機会となりました。

組合員が、気軽に参加できる企画として、「コープで体験・学び会」を3県の産直産地を中心に開催し、体験や生産者との交流を通して、産地や商品の理解を深めました。

日本の農業を応援し、ごはんを真ん中にしたバランスの良い食生活を提案する「おいしいごはんプロジェクト」は2年目となり、家で米作りを体験する「ひとめぼれチャレンジ」や指定産地米の田んぼで組合員による田植え、稲刈り体験などを実施しました。



高橋専太郎氏（JAいわて花巻代表理事組合長：写真左）と 當具 伸一（現生活協同組合コープ理事長） 2012年6月19日

## コープの商品に関わる取り組みの歴史

組合員はコープに加入するとき、コープへの期待を持って加入します。その期待（特にコープで扱う商品への期待）も時代とともに変化してきました。コープは今までもそしてこれからも、組合員の思いを大切にしながら社会の変化の中で産地・生産者とともに歩み続けています。

コープの産直事業		コープの産直事業	
1955	牛乳値上げに反対し 10 円牛乳運動展開	1990	ポスターハーベスト農薬不使用のバナナ供給開始 オージメダルビーフの開発 冷凍野菜直輸入の扱い開始
1966	はじめて生協の指定規格のタラコ開発：タール系色素→天然色素など変更		生協と農協の出資でグリーンピア設立
1969	美味しい米を安く、米の共同購入開始	1991	無農薬フィリピンミンダナオバナナ供給開始、 「農薬使用・栽培法指標（案）」に基づいた「クローパーマーク」のついたかぼちゃ・にんじん、カリフォルニア産ブロッコリーの開発 残留農薬自主基準の運用開始
1967	しずおかで原乳値上げ発表をうけ 15 円牛乳運動	1993	グリーン・プログラム運用開始 グリーンボックス供給開始
1970	COOP3.2 牛乳発売	1995	産地指定ブレンド米「ふれあい米」開始 鹿児島産うなぎ、水産部門の第 1 号グリーン・プログラム「ブラックタイガー」の開発 牛乳の「製造日」併記要請 オーストラリア産地指定リベリナビーフ、産地指定飛騨和牛の取り扱い開始 アメリカ産のびのびポーク、鹿児島産黒豚の開始 奥州赤鶏の開始
1972	しずおかで志太園芸グループといちご、翌 73 年「完熟トマト」取り扱いを開始	1996	組合員開発チームにより「はぐくみ鶏」開発
1973	中村果実グループの「桃・ぶどう」開始、銘柄米「白雪米」の扱い開始 無着色たらこの開発	1997	水産の吉田焼津産うなぎの取り扱い開始
1974	ノーワックスみかんの取り扱い開始、 鹿児島経済連と産直豚の取り扱い開始、 国産レモンの開発、牛乳の品質検査開始	1998	水産のグリーン・プログラム改定 茶美豚開発、「コープの産直」運用開始
1975	宮城島産かきの取り扱い開始 完熟トマトの開発・無着色ふきの取り扱い開始	2001	コープ牛乳品質不良事故発生
1976	佐賀経済連と鶏肉の事業提携スタート 熊本果実連と提携しジュース、ドリンク開発 開拓豚の取り扱い開始	2002	はぐくみ鶏加工品産地偽装事件発生
1977	日付表示した卵を供給開始	2005	グリーン・プログラム表示改訂
1978	岩手より牛肉の直送開始 OPP・TBZ を使用しないレモンの取り扱い開始	2006	グリーン・プログラム改定
1979	無漂白れんこんの取り扱い開始	2008	食と食料政策策定、安全・安心の信頼回復アクションプログラム策定と実践
1982	岩手県石農協と牛の産地提携及び同県内で豚肉、 鶏肉の扱い開始 台湾よりうなぎの輸入開始 産地・工場見学広がる（農協へは 14 回 1690 人）	2009	フェアトレードバナナの発売、茶美豚・はぐくみ鶏・味菜卵の親鶏へ給餌する飼料用米生産と給餌始まる、産地確認会開始
1983	広島産生カキ取り扱い開始 コープの「卵の 4 つの取り扱い基準」作成	2010	JA ふうらの、ながさき南部生産組合と「まるごと産直」開始
1984	産直愛媛豚の開発 しずおかで国産レモンの植樹祭を実施	2011	日本の農業を応援し、ごはんを真ん中にしたバランスのよい食生活を提案する取り組み「おいしいごはんプロジェクト」開始
1985	養殖わかめの開発（三浦市金田湾漁協と提携）、 タイ産ブラックタイガー共同仕入	2012	JA いわて花巻と「まるごと産直」開始
1987	残留農薬の検査開始 鹿児島県開拓農協と第 1 回目の産地交流実施		
1989	卵「ふれあいパック」開発 低農薬栽培について実験圃場の設置		

\* 1946 年「コープかながわ」の前身のひとつ「川崎生協」が誕生、1949 年「コープしずおか」の前身のひとつ「静岡民主生活協同組合」が設立、1973 年「市民生協やまなし」の前身である「山梨中央市民生活協同組合」が誕生。1990 年「ユーコープ事業連合」が発足。

\* 2013 年 3 月 21 日コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしは組織合同し「生活協同組合ユーコープ」が発足。